

市民参画に係る企画・運営委員による座談会（第12回）《要旨》

平成24年6月14日（木）午後7時から午後9時まで

市役所別館5階 第5会議室

参加者 16人

【市民】岩垣、大野、小島、坂本、佐野、白石、竹内（新規）、戸田（新規）、前田、宮崎、宮本、山本、米野

【職員】政策企画室 又賀、浅見 地域づくり支援課 木内

座談会における内容は以下のとおり

- 1 自己紹介（新たにメンバー2人が参加）
- 2 市民参画のしくみづくりの方法を具体的にどのように進めて行けば良いのか語った。
 - ・グループ分けし、その中で出された課題や仕組みづくりのヒントを基に基調講演会を実施し、年度末に仕組みを作成し、市に提言してはどうか。
 - ・気軽に参加できるような仕組みがほしい。
 - ・平成23年度の活動報告を基に進めていけば良いのではないか。
 - ・県が実施している「川のまるごと再生プロジェクト」は参考になる。
 - ・「住民参加条例」を制定している自治体でも、市民参加や市民参画が思うように進んでないところもあるようだ。
 - ・この座談会のメンバーがコアになって、市民を巻き込んで、参加や参画を繰り返してやっていくことが大事ではないか。
 - ・具体的なテーマでもいいし、制度として勉強するものいいし、まずはグループ化してから進めることが良いのではないか。
 - ・市議会を通じて市に意見をする制度を福嶋先生の講演会で知ったが、どのようにしたら良いのか。あの講演会を活かした意見を求めてはどうか。
 - ・行ってみたいなと思えるような呼びかけが必要ではないか。
 - ・朝霞の市民参加が進んでいるのかどうか分からない。市民参加の数を増やして行くことが大事ではないか。市民の集め方が悪いのではないか。
 - ・朝霞の長所や短所の具体的な話がない。特徴的な話が朝霞にはない。
 - ・朝霞の「あるべき姿」があって、現状を把握する。そして、問題点を洗い出し、そのギャップを埋めて行く作業が必要ではないか。
 - ・彩夏祭で座談会のブース等を設置し、宣伝してはどうか。
 - ・分野ごとに分かれても市民参画にはつながらないのでは。市民参画としてまとめる軸が無かったらまとまらないと思う。
 - ・朝霞の市民参加状況を含めた勉強会を行なったら良いと思う。その中で、市民参加のツールを持つようにしていけないか。
 - ・市民参加で行なっているところに言って、それを評価することも良いと思う。
 - ・「住民参加のはしご（シェリー・アーンスタイン1969）」の例について、8段階に区分

されているが、朝霞はどこを目指すのか。それによってもやり方が変わってくると思う。

- ・ 座談会の回ごとにテーマを決めてやる方法もある。
- ・ メンバーで理念や共通認識を持つことが大事である。
- ・ 市民参画が進んでいるのか。分野、エリア、テーマ等を分けるべきではないか。
- ・ 市民参加の数を増やすなら、行政がP D C Aのそれぞれの段階で増やしていけるようにしていけば良い。
- ・ 朝霞の良いところや悪いところを話し合うことから始めてはどうか。
- ・ パブリックコメントはどう活かされているのか。

3 今後の進め方について

- ・ これまでの会議で出てきたメンバーからの意見の中で、議論できるようなテーマを一覧としてまとめる。
- ・ 次回の市民座談会は、上記テーマ一覧（別紙）を基にメンバーをグループ分けする。

4 次回の座談会について

- ・ 平成24年7月12日（木）午後7時から
- ・ 場所は別途連絡する。

座談会メンバーからの意見（第1回～第12回）

1 市政（まちづくり）

- ・「見える行政、参加する市民」
- ・朝霞をどのようなまちにしたいのかみんなで話し合い、考えていきたい。
- ・朝霞に住んで良かったと思えるようなまちにしたい。
- ・まちを歩いて総合振興計画などの計画づくりをしていきたい。
- ・市内に黒目川があるため、ブロック的にまちが形成されている。
- ・内間木地区などまち外れに住んでいる人もいる。
- ・メンバーが色々なところを見に行き、政策を考えていきたい。
- ・例えば、内間木地区の住民が基地跡地についてどう考えているのか。
- ・格差を無くしていくことが大事である。
- ・農業や、都心から市内に転入する人、商業など、色々なものがある。
- ・内間木地区の住民はへき地であると思っている。
- ・行革に興味があり、市民参加をどう捉えていくのか。
- ・市民に朝霞はどういうことを求めていますか。
- ・朝霞をどのようなまちにしたいのかみんなで話し合い、考えていきたい。
- ・次世代（子ども）のことを重点的に考えていきたい。
- ・まちのイメージを持ちたい。
- ・朝霞に住んで良かったと思えるようなまちにしたい。
- ・次世代に市民の声を吸い上げるような制度が欲しい。仕組みを作っていく。
- ・「住んでいて良かったな～」と思えるまちにしたい。
- ・福祉制度にも差がある。
- ・市民から不満を聞いたことがないから、朝霞市は良いまちだと思う。
- ・分野ごとに手分けをしてやっていくもの1つの手法であると思う。
- ・言っただけで終わってしまうのが朝霞市。
- ・「内間木のまちづくり」に参加していこう。
- ・都市計画マスタープランや総合振興計画など、まちを歩いて計画づくりをしていきたい。
- ・「特徴ある朝霞市」を考えたい。
- ・他の方々が朝霞に行ってみたいと思うようなアトラクション（魅力）、そして同時にその事が朝霞住民が誇りに思えるような特徴を持った町づくりである。
- ・黒目川を中としたまちづくりを市民参画で行いたい。現在、県の補助事業として企画段階である。川周辺の環境を「点→線→面」と広げていきたい。
- ・市民参画で提案をしても、市に採用されないこともある。座談会で「〇〇なまち朝霞」など、大きな課題を設定してはどうか。
- ・兵庫県では、「健康」をテーマにまちづくりを進めているようである。

- ・達成感が大事である。実現出来ない提言書では意味がない。
- ・行田市のまちづくりへの取組みは、近隣市から取り残されたという危機感があったため「何とかしなければならない」との思いから始まったのではないか。朝霞市はそのような機運がないのが現状ではないか。
- ・地域によってまちづくりに関する要望は変わってくると思う。
- ・県が実施している「川のまるごと再生プロジェクト」は参考になる。
- ・朝霞の長所や短所の具体的な話がない。特徴的な話が朝霞にはない。
- ・朝霞の「あるべき姿」があって、現状を把握する。そして、問題点を洗い出し、そのギャップを埋めて行く作業が必要ではないか。
- ・市民参加の数を増やすなら、行政がP D C Aのそれぞれの段階で増やしていけるようにしていけば良い。
- ・朝霞の良いところや悪いところを話し合うことから始めてはどうか。

2 市民参加・参画全般（制度など）

- ・市民に向き合う姿勢が伝わってきた。
- ・「楽しくまちづくり」では、テーマが大きすぎて分かりづらい。
- ・市民自身が選択する（考える）市民参画の形を考えいく。
- ・市民活動の進み具合を測る物差し（指標）を作ったらどうか。
- ・市民のイニシアチブを助けるための制度があると良いと思う。
- ・住民の声に行政が耳を傾ける制度や仕組みが必要であると思うため、それを市民座談会で検討すべきである。
- ・「市民参画」についてもう少し考えて行きたい。
- ・「市民参画」の現状を把握し、そこから考えていく。
- ・「市民参画」の事例は他市にあるのだから、どんどんやれば良いと思う。
- ・市民活動の進み具合を測る物差し（指標）を作ったらどうか。
- ・市民のイニシアチブを助けるための制度があると良いと思う。
- ・志木市の政策評価は市民よって行われている。
- ・市民と行政との合意形成が必要である。常にフィードバックしていくこと。
- ・講演会から朝霞市は学ぶべきである。
- ・「市民参画」についてもう少し考えて行えるべき。
- ・今はできていないように思う。
- ・「市民参画」を切り口に現状を把握し、そこから考えていく。
- ・目標を定め、役所や市民がアクションに落とし込めたら良いなと思う。
- ・スタートとしては、現状はどうか洗い出せば良い。
- ・「市民参画」の事例は他市にあるのだから、どんどんやれば良いと思う。
- ・座談会で全ての分野に話ができる訳ではないため、市民参画の手法を検討していけば良

いのではないか。

- ・使命感や義務感だけでは市民参画は出来ないと思う。そこに「面白さ」がないと参画は出来ない。理屈ではなく、「面白さ」を出す「仕掛け」が必要である。
- ・平成23年度に作成した報告書に基づいてしくみづくりを考えて行けば良いと思う。
- ・個人もNPOなどの法人も関心がない分野にも目を向けられるようにできないか。
- ・気軽に話ができる役所になって欲しい。
- ・コミュニティに市民参画ができるしくみが必要である。
- ・気軽に参加できるような仕組みがほしい。
- ・平成23年度の活動報告を基に進めていけば良いのではないかと。
- ・「住民参加条例」を制定している自治体でも、市民参加や市民参画が思うように進んでないところもあるようだ。
- ・この座談会のメンバーがコアになって、市民を巻き込んで、参加や参画を繰り返してやっていくことが大事ではないか。
- ・朝霞の市民参加が進んでいるのかどうか分からない。市民参加の数を増やして行くことが大事ではないか。市民の集め方が悪いのではないかと。
- ・朝霞の市民参加状況を含めた勉強会を行なったら良いと思う。その中で、市民参加のツールを持つようにしていけないか。
- ・市民参加で行なっているところに言って、それを評価することも良いと思う。
- ・「住民参加のはしご（シェリー・アーンスタイン1969）」の例について、8段階に区分されているが、朝霞はどこを目指すのか。それによってもやり方が変わってくると思う。

3 広報、広聴

- ・初めての人が見てもわかるように専門用語や難しい言葉には説明を付記する（例：市民意識調査については、HPの掲載場所を示すなど）。
- ・行政、市民、議会の役割とは。情報公開が必要である。
- ・市民座談会を知らない人が多いと思うため、もっと知らせていく必要がある。
- ・市民のことを吸い上げる仕組みが必要。
- ・格差があるならどういう歪みを直すのか。
- ・住民の声に行政が耳を傾ける制度や仕組みが必要であると思うため、それを市民座談会で検討すべきである。
- ・行ってみたいなど思えるような呼びかけが必要ではないか。
- ・パブリックコメントはどうか活かされているのか。

4 人集め

- ・「市民参画」がテーマでは、人は集まらない。
- ・「まちづくりへの参加」⇒「楽しい」と思ってもらえるような内容が望ましい。
- ・座談会を定期的開催することが理想であるが、新たなメンバーの都合も考慮する。
- ・アンケート用紙にはP Cアドレスだけではなく、今後の座談会への参加を促す意味でも住所や電話番号等の記入欄があると良かった。
- ・若い世代の参加が少なかったことは残念である。
- ・志木市や川口市などのように積極的に広報で呼びかけることも必要ではないか。
- ・市政に参加する市民はごく一部であると思う。それをどう広げていくかが課題である。
- ・市民座談会を知らない人が多いと思うため、もっと知らせていく必要がある
- ・人を呼び込むために何か出来ないか。
- ・市政に参加する市民はごく一部であると思う。それをどう広げていくかが課題である。
- ・活動している人達の輪が大きくなっていければ良い。
- ・何故、参加する市民の数が少ないのかを考えるべきである。参加したいと思っている市民はいると思うが、何に参加して良いのか分からないのではないのか。そのため、市民参画のしくみづくりを考えていきたい。
- ・主婦、現役、シニア世代などいろいろ出すことが大事である。

5 座談会

- ・まちづくりのイメージをメンバー全員で共有しないと前に進まない。
- ・どのようなまちにしたいのか、どのようなことが問題なのかをメンバーで出し合い、それを分野ごとに分け、WG（ワーキンググループ）を作り、具体的な問題・課題を論議する必要がある。
- ・具体的な目標を設け、達成したのち、普遍的な目標に広げていく。
- ・平成24年度は「モデル」となる場を設け、良いところ、悪いところを抽出し、そののち、水平展開していく。
- ・座談会を分科会形式で進めていくことも考えた方が良い。
- ・メンバーが色々なところを見に行き、政策を考えていきたい。
- ・座談会で何をやっていくのか、「想い」を集約し、大きなテーマを1つ決めて実施する方が良いのではないか。
- ・座談会で何をやっていくのか、「想い」を集約し、大きなテーマを1つ決めて実施するのが良いのではないか。
- ・外から見て市民座談会は何をやっているのか。我々に達成感がない。
- ・市民座談会の目的は何か。
- ・例えば、道路座談会や福祉座談会などを想定しているのか…

- ・グループ分けし、その中で出された課題や仕組みづくりのヒントを基に基調講演会を実施し、年度末に仕組みを作成し、市に提言してはどうか。
- ・具体的なテーマでもいいし、制度として勉強するものいいし、まずはグループ化してから進めることが良いのではないか。
- ・彩夏祭で座談会のブース等を設置し、宣伝してはどうか。
- ・分野ごとに分かれても市民参画にはつながらないのでは。市民参画としてまとめる軸が無かったらまとまらないと思う。
- ・座談会の回ごとにテーマを決めてやる方法もある。
- ・メンバーで理念や共通認識を持つことが大事である。
- ・市民参画が進んでいるのか。分野、エリア、テーマ等を分けるべきではないか。

6 議会

- ・議会の機能についてお話しいただくことができて良かった。
- ・市議会を通じて市に意見をする制度を福嶋先生の講演会で知ったが、どのようにしたら良いのか。あの講演会を活かした意見を求めてはどうか。